

地域に学校から 伝える プラネタリーヘルス

日時:2025/11/02/SUN
13:00-14:30

会場: 帝京大学

第三会場 本館209

国際学校保健コンソーシアム

日本国際保健医療学会学生部会合同企画



座長:小林 潤
琉球大学保健学研究科

01

プラネタリーヘルス教育実現の方策 としてのエコヘルス教育の開発と普及

ラオスにおけるエコヘルス教育の開発と普及の過程、
およびその課題を整理し、
学校教育を通じたプラネタリーヘルス普及において
エコヘルス教育が有効な方策となり得る
可能性を検討する。

友川 幸

信州大学教育学部

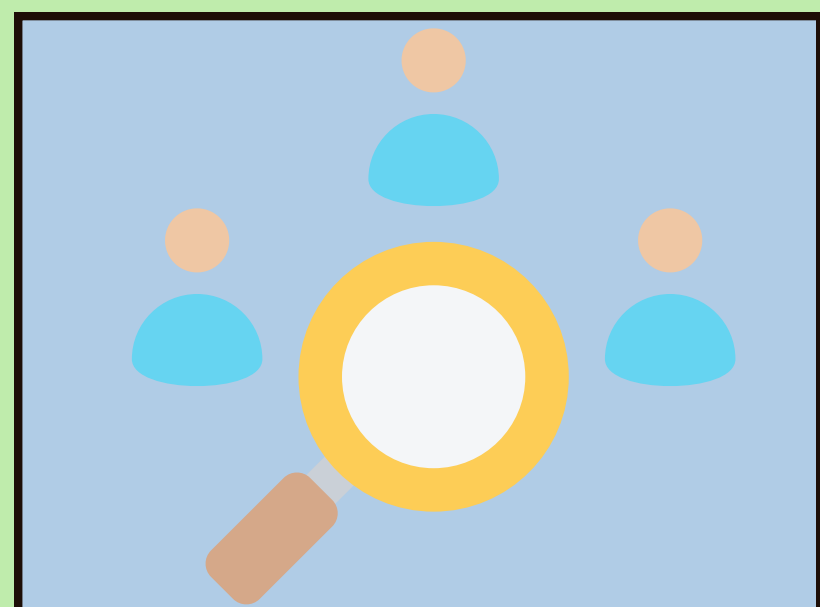


02

School MealからShokuikuへ、
食からプラネタリーヘルスを考える
「食育」の導入により
日本の学校給食は単に食の提供に
留まらない教育の場となっている。
学校給食とプラネタリーヘルス
との関わりを整理する。

城川美佳

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学研究科



食育から取り組む ESD

学校給食を教材にした食育を通して、
ESDの視点から
地域とともにプラネタリーヘルスを考える実践を報告する。

望月佐知

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校 @YNU_KAMAKURA_SHOKUIKU



03

『自分ごと』から始まるグローバルヘルス教育 ~大学生と高校生が共に学ぶ "Child to Child アプローチ"の挑戦~

大学生が高校生と共に「水と健康」をテーマに学び、
Child to Childアプローチを通して、
グローバルヘルスの観点から

世界・社会にある格差や環境問題を自分ごととして
松岡あかり 考える教育の可能性を探る。

東京女子医科大学
医学部医学科4年

04

伏見綾

横浜市立大学
医学部看護学科2年



05

太平洋島嶼国の 学校保健推進から 学ぶプラネタリーヘルス

太平洋島嶼国での学校保健研究を通じ、
政策と教育実践の近さが
プラネタリーヘルス推進の鍵であることを示す。
地域に根ざした教育の重要性を論じる。

小林 潤

琉球大学保健学研究科